

令和8年1月23日

まちづくり委員会資料

夢見ヶ崎動物公園再整備計画の策定に伴う
パブリックコメントの実施について

建設緑政局

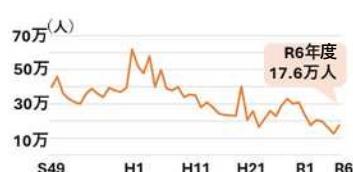
夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

来園者数・収支状況

ピーク時(昭和63（1988）年)の来園者数は60万人を超えていましたが、**近年は10～20万人程度で推移しています。春(3～5月)及び秋(9～11月)に来園者数が増加する傾向**にあります。

園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。過去5年間(令和2（2020）年度～令和6（2024）年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

■来園者数の推移



「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

平成30（2018）年 夢見ヶ崎動物公園基本計画
「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」

令和4（2022）年
夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5（2023）年～令和6（2024）年
夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

夢見ヶ崎動物公園の課題

公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応が必要となっています。

●社会変容による市民ニーズ等の変化

新型コロナウイルス感染症による影響、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、アニマルウェルフェア※に対する意識の高まりなど



先行整備をした
パークセンター

動物舎の老朽化

●施設の老朽化や不足による課題（部分的に先行整備を実施）

園内のバリアフリー化の不足／動物展示の魅力低下／アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分／駐輪場や駐車場の検討不足など

●サービス面の課題

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足／地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足／加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

●持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプラン等の充実が必要／飼育のノウハウの継承が不十分／持続可能な管理運営のための財源確保の課題など

※アニマルウェルフェア：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のこと

再整備の基本的な考え方

夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。**



- ・地球環境を大切にする行動へつながる
- ・自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- ・自分や他者を大切にする気持ちを育てる

加瀬山に存在する自然・歴史・動物の**多彩ないのち**を加瀬山全体として体感できる**施設整備と運営管理を実現**

再整備により “都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場” としての動物公園を創造します。

加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源のエリアごとの整理

基本方針① 里山樹林エリア



- ・土地の記憶から自然の営みを実感
- ・樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫
- ・生きものとの共存を考える機会
- ・身近な鳥獣保護区が住民の誇りにつながる

基本方針③ 動物園エリア



- ・気軽に飼育員さん、園長さんに出会える環境
- ・動物のリハビリを知り、関われる
- ・都市の中で、様々な動物と出会える
- ・いつでも、何度も、ゆっくり、じっくりいのちと向き合える

基本方針② 公園エリア



- ・世代の異なる人々との関わり
- ・健康づくりや生きがい創出
- ・伝統や文化など人の営みを実感
- ・歴史と平和の大切さを伝える



夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

全体の空間構成と施設配置計画

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

里山樹林 エリア

緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】

- (A) 樹林管理の拠点
- (B) 階段・散策路
- (C) 児童公園
- (D) 駐車場



里山体験教室のイメージ

公園 エリア

人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する
【再整備を検討する主な施設】

- (E) 「う回路」入口・パークセンター南側
- (F) 駐車場からの入口
- (G) 展望広場
- (H) エントランスのロータリー
- (I) 慰霊塔付近
- (J) 芝生広場
- (K) 慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ

生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】

(F)憩いの拠点

- ・富士山、街の眺望
- ・シンボル的なデザインのトイレやゲート、休みたくなる休憩施設



富士見デッキの眺望
(夢見)



動物病院イメージ



動物舎イメージ

(D)交流の 拠点

ワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導サインや案内板



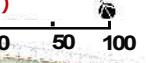
動物モチーフのサイン
(のんほいばーく)



エントランスの演出
(盛岡市動物公園)

R10-11 (2028~2029) 年

展望広場・基盤整備（動物病院など含む）



第1期

第2期

第3期

第4期

第5期

R12 (2030) 年 西エリア

R14-15 (2032~2033) 年 東エリア

R16-17 (2034~2035) 年 フラミンゴ・シマウマ舎・園路・公園・樹林地整理など

R13 (2031) 年 中央エリア

植栽

- ・既存の緑陰を活かしながら剪定を実施
- ・施設や公園利用の支障となる樹木を適切な位置に更新
- ・樹林管理活動で出た発生材の有効活用の検討

動線

- ・通過、散策など“たまり場”的バランスに配慮
- ・安全に楽しみながら歩ける舗装の整備
- ・災害時などにおける緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

公園全体

- ・園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- ・各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置



発生材アート作品
(吉野ヶ里遺跡)

(J)にぎわい の拠点

遊びやイベントなどの利便性向上のための園路や休憩施設



キッチンカーの出店
(夢見)



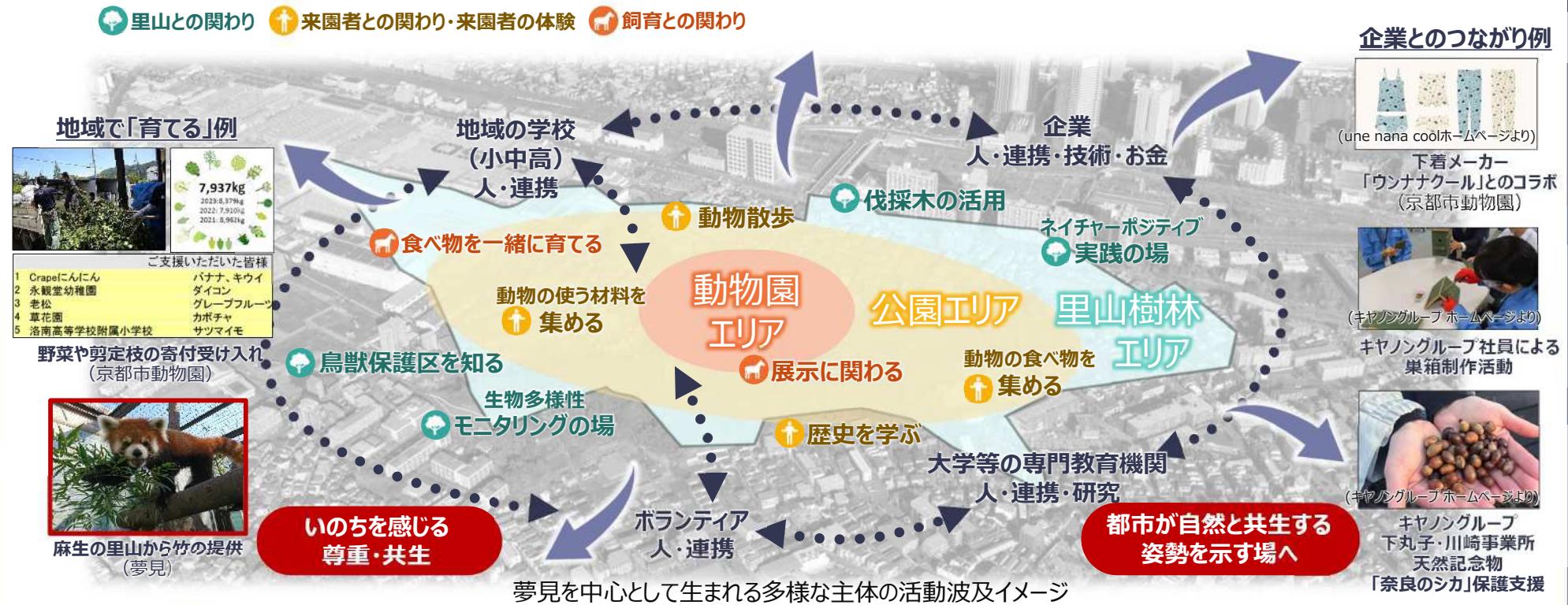
芝生広場
(夢見)



夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら市民・企業・大学と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。



地域とのつながり例

*赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



慶應義塾大学大学院 ワークショップ (夢見)



近隣企業による地域 貢献活動 (夢見)



東京農業大学による 保護鳥獣研究 (夢見)



川崎総合科学高校による 展示の協力 (夢見)



加瀬山の会の門松作成 (夢見)

動物公園内の循環の例



園内の樹木の葉で 巣作り (夢見)



果樹の栽培 (渋川動物公園)



来園者からの ドングリの寄付 (大宮公園小動物園)



夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

コレクションプランの考え方

現飼育個体については継続して飼育していくこととし、飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、**将来的に計34種（+a）を継続して飼育する方針**とします（現飼育個体の令和17（2035）年度における自然減想定は約46種）。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）コレクションプラン掲載種など、国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種は、今後も**新たな種の導入を継続的に検討**していきます。

飼育種続	新規導入	現飼育個体をもつて	考え方	動物園としての役割・取組内容など	動物種の例	※国際自然保護連盟（IUCN） レッドリスト分類（絶滅の危険性） EN = 危機 VU = 危急 JSMP = 管理種 JSB = 登録種
			種の保存・野生生物保全調査・研究 教育・環境教育レクリエーション 情報教育、環境教育など	・種の保存への貢献その他これまでの実績などを勘案し、積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続する ・状況に応じて個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続する 川崎市環境教育・学習アクションプログラムなどへの貢献 生物多様性かわさき戦略などへの貢献 【34種】 【+a】	シエンティッシャパンダ （レッドリスト：VU） フンボルトペンギン （レッドリスト：EN） パンドルクジャク （レッドリスト：JSMP） バラフンコクジャク （レッドリスト：VU） ホンドタヌキ （レッドリスト：JSB） アカオヒメシャクケイ （レッドリスト：EN） クモザル （レッドリスト：VU）	
			・絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種 ・近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種 ・人気種等市民ニーズの高い種 ・魅力増進に対応する種 ・繁殖や新規導入が困難な種 ・他の希少種などの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種 ・外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種	一	・種の保存や個体の状況などを勘案し、他の飼育園で繁殖させず終生飼養する ・園内で繁殖ができず、国内の他園からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ないなど）は現個体の終生飼養後に飼育を終了する ・飼育終了までアニマルウェルフェアに配慮し、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める ・外来種、特定外来種等は飼育種としての定着を想定しない	

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。

概算事業費

計画期間の概算事業費は、次のとおりです。

■全体概算事業費

項目	適用	金額（億円）
獣舎	レッサーパンダ舎・ペンギン舎・サル舎・インコ舎・小動物舎等	28.2
バックヤード	動物病院・動物隔離施設・調理室等	6.9
広場と遊具	遊具・休憩施設・芝生・小公園等	3.0
利便施設	トイレ	0.5
全体	園路・給排水・電気・埋蔵文化財調査・撤去費等	14.6
総額（消費税込み）		53.2 億円

※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります。

事業手法・運営手法

- ・飼育動物を移動させながら行う段階的整備が必要となり一括発注の効果が限定的となること、動物舎等の特殊性から民間活用によるコスト・工期の削減も期待できることから、市内事業者の参画が見込まれ、地域経済活性化にも寄与できる設計・施工分離発注方式により整備を実施します。
- ・運営については分野ごとにヒアリングや検討を行い、運営手法の考え方を整理した結果、**飼育業務は行政が主導的に実施し、各種プログラムの実施、駐車場などは民間パートナーとの協働により充実**していきます。

■民間事業者との連携範囲



コレクションプラン

コレクションプランの考え方により夢見で**飼育管理する種を①推進種②維持種③調整種④対象外の4つのカテゴリーに分類**します。このコレクションプランに加えて、夢見の魅力増進に対応するための新たな種の導入については継続的に検討します。夢見の「いのちをまもる」取組の一つに、野生傷病鳥獣の保護活動があります。地域に住む野生動物を知り、人と野生動物との関り方を改めて来園者に考えていただくために、飼育の継続が必要であると判断し、再整備計画骨子からの更新として、野生保護種であるホンドタヌキ、オオタカなどの一部を「対象外」から「推進種」「維持種」に変更しました。（コレクションプランは本編巻末参照）

スケジュール

再整備計画を**令和8（2026）年5月に策定**し、整備に向けた基本設計などを進め、**令和10（2028）年度から飼育動物を移動させながら、段階的に改修整備**を進めます。

年度	令和西暦											
	6 2024	7 2025	8 2026	9 2027	10 2028	11 2029	12 2030	13 2031	14 2032	15 2033	16 2034	17 2035
スケジュールなど	再整備計画骨子											
	再整備計画											
	駐車場や体験プログラムなど 民間パートナーとの協働											
	生物多様性に関する取組											
	工事											
	1期 → 2期 → 3期 → 4期 → 5期											
	先行整備											
	基本・詳細設計											
	詳細設計											
	埋蔵文化財調査											
	動物種数（自然減想定） 51種（R7.12月末時点）											
	約46種											



夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案）について ご意見をお聞かせください



意見募集期間：令和8年1月30日(金)から令和8年3月2日(月)まで

夢見ヶ崎動物公園は、標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような、市内で唯一の動物公園です。古墳など歴史資源を有し、お花見・散策・遠足・地域の行事など、四季を通じて幅広く利用されています。

しかし、開園から70年以上が経過し、施設の老朽化や周辺環境の変化、市民ニーズの多様化、さらには、気候変動への対応等が必要となっていることから、市民や利用者が「いのちを感じる」場を整え「都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場」としての動物公園を創造します。

このたび、再整備の基本的な考え方及び運営手法等を「夢見ヶ崎動物公園再整備計画(案)」としてとりまとめましたので、市民や企業、団体の皆様など、市に関わる方々から広く意見を募集します。

次について、ご意見をお聞かせください

- 1 整備の基本的な考え方について **Point** いのちを感じるプログラム
- 2 全体の空間構成と施設配置計画について **Point** 具体的な施設配置
- 3 地域への波及イメージについて **Point** 取組のアイデア
- 4 事業手法・運営手法について **Point** 日吉合同庁舎(庁舎駐車場・臨時駐車場)
と連携した駐車場の有料化

*次項に夢見ヶ崎動物公園再整備計画(案)の概要を掲載しています。詳細は市ホームページまたは閲覧場所にてご覧ください。

～意見募集につきまして～

1 意見募集の期間

令和8年1月30日(金)から令和8年3月2日(月) ※郵送の場合は、令和8年3月2日(月)消印有効

2 意見の提出方法

①インターネット入力フォーム <https://logoform.jp/form/FUQz/1366241>

パソコンで回答される方は、上のURLよりアクセスください。

スマートフォンで回答される方は、右の二次元コードからアクセスできます。

※川崎市ホームページの「意見募集(パブリックコメント)」にアクセスし、ホームページ上の案内に従って御利用ください。

②ファクシミリ FAX番号:044(200)3973

③郵送先、持参先 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所本庁舎17階
川崎市建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課

※意見書の書式は自由ですが、必ず「題名」、「氏名」及び「連絡先(電話番号、メールアドレスまたは住所)」を明記してください。

ご意見は
こちら



▲入力フォーム

3 資料の閲覧場所

かわさき情報プラザ(川崎市役所本庁舎復元棟2階)、各区役所市政資料コーナー、

建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課、市民館・図書館、幸区役所道路公園センター、

夢見ヶ崎動物公園パークセンター、日吉合同庁舎(1階・3階)、川崎市ホームページ

《注意事項》 <https://www.city.kawasaki.jp/templates/pubcom/530/0000183320.html>

資料は
こちら



▲市ホームページ

- ・御意見に対する個別回答はいたしませんが、市の考え方を整理した結果を後日市のホームページにて公表します。
- ・個人情報については、提出された御意見の内容を確認する場合に利用し、個人情報の保護に関する法律等に基づき厳重に保護、管理します。
- ・電話や口頭での御意見の提出はできません。
- ・持参時の提出時間は、開庁日の8時30分から17時15分まで(12時から13時を除く)

4 問い合わせ先

川崎市建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課 電話:044(200)1202 FAX:044(200)3973 8

夢見ヶ崎動物公園再整備計画

(案)



目次

1.はじめに	1
2.現況の整理	
2-1.夢見ヶ崎動物公園の現状	3
2-2.利用実態	4
2-3.連携協働の取組	5
3.夢見ヶ崎動物公園の課題	6
4.再整備の方向性	7
5.目指すべき将来像	8
6.再整備の基本的な考え方	
6-1.再整備の必要性と基本的な考え方	9
6-2.「いのちを感じる」とは	10
6-3.「いのちを感じる」環境づくり	11
6-4.「いのちを感じる」プログラム	12
7.いのちを感じる空間構成と主な施設	
7-1.全体の空間構成	13
7-2.動線	14
7-3.植栽の考え方	15
8.施設配置計画	
8-1.緑と人が出会う	16
8-2.人と人が出会う	17
8-3.生きものと人が出会う	19
9.概算工事費用と段階整備概要	23
10.事業手法	24
11.運営手法	25
12.整備効果	26
13.事業スケジュール	27
巻末 コレクションプラン	



背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は樹林に囲まれた標高35mの加瀬山に位置します。広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

平成30（2018）年3月に策定された「夢見ヶ崎動物公園基本計画」では、公園の特色を活かしながら、幅広い世代・分野の人々がつながり、生きものへの理解を通じてのいちの大切さや生物多様性と恩恵を学び、地域に愛され、賑わいをもたらす持続可能な夢見の実現を目指して、将来像や基本コンセプトなどを定めています。

近年、新型コロナウイルス感染症による影響や脱炭素社会実現に向けた取組、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まりなど、様々な社会変容が見られたことから、令和4（2022）年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」を定めて再整備の内容を見直し、これをもとに市民の意見聴取、民間事業者との対話を重ね、令和6（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を決定しました。

本計画は、これを踏襲しながら、動物公園としての役割を改めて見直し、地域の拠点としての新たな可能性についても考慮し、動物展示施設および公園施設の配置、より具体的な整備内容、事業推進や管理運営の手法などについて示しています。

整備は直近5年間の視点に加え、中長期的な視点も踏まえて行います。

整備開始～5年間の視点	飼育環境や魅力向上させる整備 <ul style="list-style-type: none"> ・サル舎 ・小動物及び家畜舎 ・バックヤード（動物病院・調理施設） ・インコ舎 ・各種設備 など
中・長期的視点	動物飼育状況に応じた整備 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい動物の導入検討 ・飼育を終了する種の将来的な動物舎の活用方法の検討 ・効果的・効率的な管理運営を見据えた機能拡張

概況

昭和25（1950）年に開園され、昭和47（1972）年に動物の飼育・展示を開始し、昭和49（1974）年4月に公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）に加盟し動物園としての第一歩を踏み出しました。標高35mの丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のようになっています。市内で唯一の動物公園として、また、古墳など歴史資源を有し、春のお花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



遠足利用により賑わう広場空間

【概要】

所在地	幸区南加瀬1-2-1	開園日	昭和25（1950）年4月1日
公園面積	6.6ha	展示開始	昭和47（1972）年11月22日
公園種別	地区公園	展示動物	51種279点（令和7（2025）年12月末時点）
		入園料	無料



※川崎市ホームページより

1. はじめに

2

対象区域

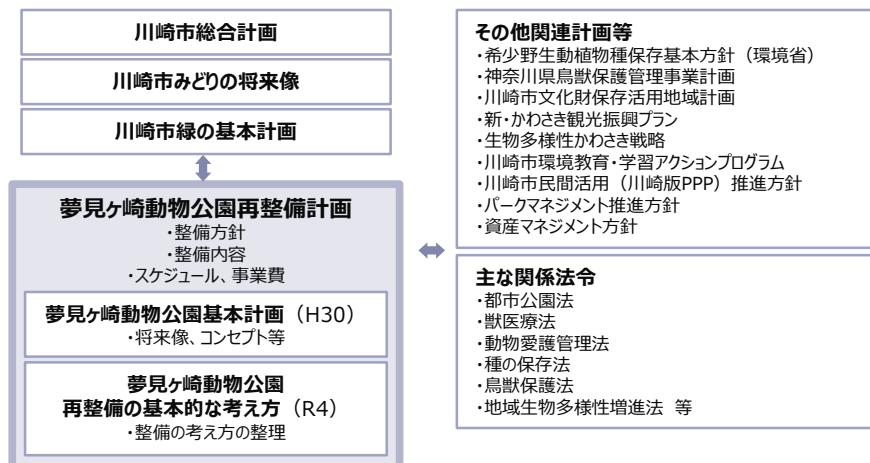
本計画は、民有地などを除く、**夢見全体を対象区域（6.6ha）**とします。



上位関連計画

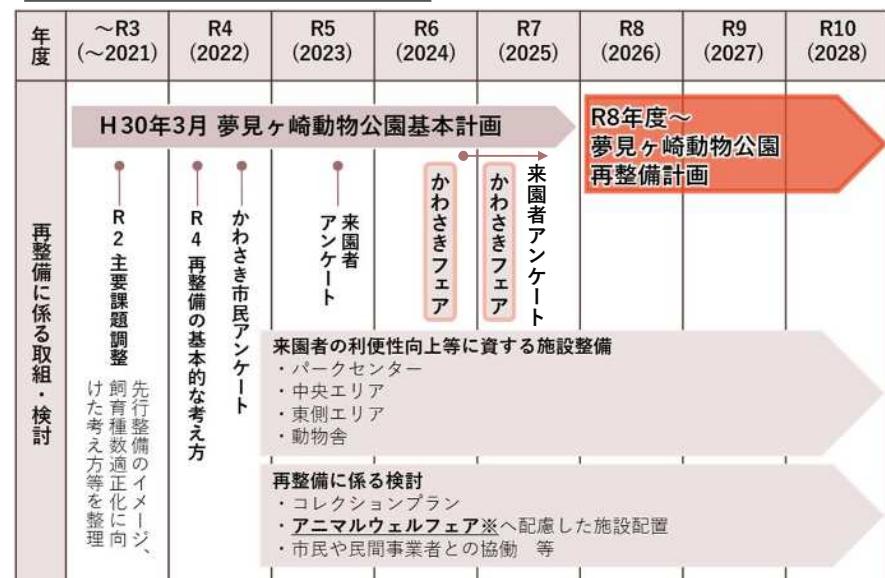
本計画は夢見ヶ崎動物公園基本計画をはじめとする**関連計画との整合を図りながら策定**するものとします。

■上位関連計画



検討の経緯など

平成30（2018）年度に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を策定した後、コロナ禍やアニマルウェルフェア※への関心の高まりなど社会変容に合わせた計画の見直しを行い、令和4年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」をまとめ、「動物福祉とふれあいなどに関する検討」としてコレクションプラン作成などに着手、**令和6年度に本計画のベースとなる「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」をとりまとめました。**



※**アニマルウェルフェア**：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のこと。日本動物園水族館協会（以下、JAZAという。）のアニマルウェルフェア規程では、会員および園館職員は動物の飼育管理にあたり、栄養、環境、健康、行動、精神状態の5つの領域に関して科学的根拠に基づき定期的にアニマルウェルフェアを評価し、定められたアニマルウェルフェア基準に基づいた動物の飼育管理及び施設運営を行わなければならないとしている。

計画期間

再整備計画の対象期間は、**計画策定から概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

2. 現況の整理

3

2-1 夢見ヶ崎動物公園の現状

立地特性

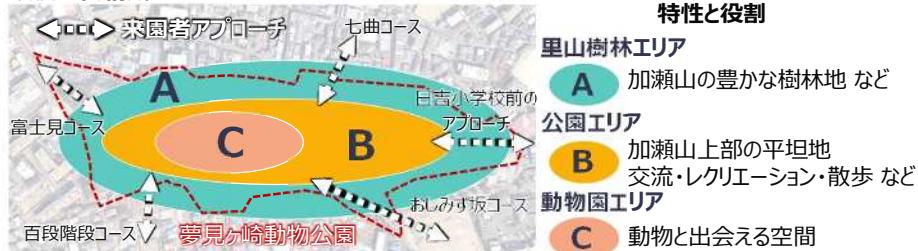
標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され、多様な特性を有しています。

自然的特性	・標高35mの丘陵地 ・外周斜面は里山樹林（まとまった緑） ・市内唯一の動物公園 ・鳥獣保護区に指定 ・年間を通じて花や草木、昆虫、野鳥など四季折々の自然を体感
社会的特性	・富士見デッキなどからまちを一望できる(天気が良ければ富士山が見える) ・幸区市民健康の森に指定 ・古墳、国宝「秋草文壺」の出土、太田道灌、戦時中の土取り工事、戦没者慰霊塔など歴史的資源が豊富 ・敷地内の社寺などの民有地と共存

■ 加瀬山の構造



現況空間構成



特性と役割

- 里山樹林エリア A 加瀬山の豊かな樹林地 など
- 公園エリア B 加瀬山上部の平坦地 交流・レクリエーション・散歩 など
- 動物園エリア C 動物と出会える空間

現況施設

現在園内には、次のような公園施設・動物展示施設が配置されています。



生物多様性かわさき戦略での位置付け

「生物多様性かわさき戦略」では、市街地・臨海部エリアにおける回廊(コリドー)における拠点(コア)であり、生物多様性に関する情報の収集・発信拠点としての役割も担っています。

■ 生物多様性かわさき戦略



2. 現況の整理

4

2-2 利用実態

来園者数

ピーク時(昭和63(1988)年度)の来園者数は60万人を超えていましたが、近年は10~20万人程度で推移しています。花見など春の行楽シーズン(3~5月)及び秋の行楽シーズン(9~11月)に来園者数が増加する傾向にあります。



利用者のニーズ等

令和6年度に市内で行ったオープンハウス型説明会や、令和7年度から園内で実施しているアンケートでは、以下のような利用者のニーズ・意見が得られました。

オープンハウス型説明会 (令和6(2024)年度/参加者=353名)

対象：会場に立ち寄ってくださった方（令和6(2024)年10月～11月）

夢見のパークセンター及び全国都市緑化かわさきフェアのコア会場（3会場）にて、夢見全体や再整備の取組などについて広く意見を収集しました。

得られた主な意見

動物飼育に関する方針があるのか
疑問に思う

動物のためになるのなら、お金を
取つてもいいと思う

以前行ったときは駐車場がいっぱ
いで帰ることになった

遊べる場所や遊具が充実してい
るといい

計画での対応

コレクションプランの分類の考え方を明確に計画に表記

歳入確保に向けた運営手法について計画に表記

駐車場の効率的・効果的な運用について、引き続き関連事業者と対話を行ながら検討

空間構成において、遊びのエリアを計画に位置づけるよう検討

入園料・収支状況

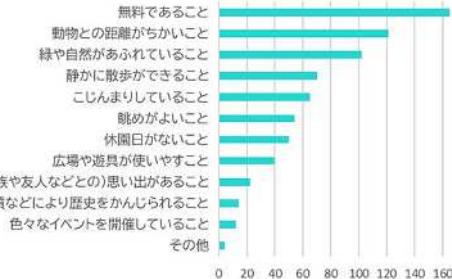
園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯があります。

過去5年間(令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)の平均収入額は、一時使用料などにより約16万4千円となっています。

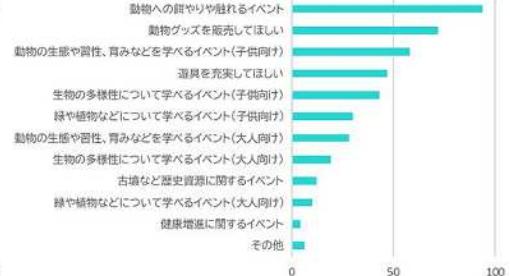
支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

来園者アンケート (令和7(2025)年5月～11月/回答数=188) ※以下4項目は複数回答

■夢見の魅力



■夢見で充実してほしいコンテンツ



■夢見で“いのちを感じる”シーン・場所



■設備についてのご要望



2. 現況の整理

5

2-3 連携協働の取組

これまで、サポーターやボランティアの方々、教育機関など**多様な主体と連携した取組**を行っており、**活動のフィールドとして利用**しています。

多様な主体との連携協働

① ゆめみらい交流会

様々なスキルを持った各種団体の強みを活かし、**パークセンターでワークショップや研修会**を実施



ゆめみらい交流会の様子



パークセンターでの活動の様子

④ 野生鳥獣リリテー

保護鳥獣の給餌・育雛・リハビリ業務などを行う。スキル向上や意見交換を目的とした**勉強会や研修会**を実施。



保護動物への給餌の様子

② 夢見ヶ崎動物公園

サポーター

動物園まつりなどのイベントスタッフに加え、夢見のイメージアップにつなげるような**広報活動への協力や継続的な寄付への協力**



サポーターと職員による手作り看板



動物園まつりなどのイベント支援

⑤ クラウドファンディング

令和4年に実施し約400人から**約600万円の支援**



医療機器の購入

③ 加瀬山の会

園内の植栽管理、花壇活動などを実施



富士通とのコラボによるアジサイの植樹



季節を伝える演出



小学校、保育園とのコラボによる花壇の花植え



日本文化の伝承

地域との親和性の向上

① 幸区役所との連携

市政だよりやHP・広報などの協力や区役所で実施する**事業への参加や連携**、区役所が保有する**地域資源とのコラボレーション**



市政だより幸区版への掲載

② 日吉出張所との連携

ゆめみZOOテラスの充実や連携施設としてのつながりを表現、**イベントの共催などにぎわいの創出協力**



ゆめみZOOテラスの様子

地域との連携

人の集まる施設での広報

鹿島田跨線橋や鹿島田駅、地域の商業施設など能動的に情報が伝わるエリアで広報



鹿島田跨線橋での広報

市内外の教育機関・高齢者施設などとの連携

① 保育園・幼稚園との連携

遠足としての利用、いのちを学ぶプレ授業としての**出前授業**などを実施



遠足でにぎわう様子

② 小学校との連携

小学校の学びの場として、**遠足前にzoomや出前授業**を実施



授業の資料

④ 高齢者施設との連携

高齢者施設での**オンライン動物園ガイドや動物紹介動画の貸し出し**



授業の資料

③ 高校・専門学校・大学などの連携

高校のインターンシップ受け入れ、専門学校や大学の**飼育実習受け入れ**、大学の研究室と協働により実施する**飼育動物の環境エンリッチメントなどの調査・研究**



東京農業大学との共同研究
猛禽類の飛翔・翼の機能
解明に関する研究

3. 夢見ヶ崎動物公園の課題

開園から70年以上が経過し、**公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動などへの対応が必要**となっています。

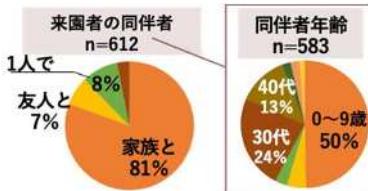
①社会変容による市民ニーズ等の変化 (市民意見・民間事業者意見の調査)

近年では新型コロナウイルス感染症による影響や、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、さらにはアニマルウェルフェアに対する意識の高まりなど様々な社会変容が見られました。夢見に対する課題やニーズを把握するため、市民や民間事業者からの意見を収集しました。

来園者アンケート (令和5(2023)年度/回答数=619)

対象：来園者（令和5(2023)年11月）

- 10歳未満の子どもを連れた子育て世代の来園者が多い
- 約8割が2時間以内の滞在時間 ⇒ “**気軽さ**”が魅力
- 園内の**自然環境・散歩のしやすさ**のほか、**動物公園全体の満足度が高い**
- トイレについて“良くない”**が約4割
- 動物園のメジャーな種の他、ウサギなどの**人と距離の近い動物**、タヌキなどの**身近な野生動物**が人気で、**動物に関連したプログラム**への関心が高い



かわさき市民アンケート

(令和4(2022)年度/有効回答数=1,556)

- 対象：市内在住の満18歳以上の個人
(郵送・R4年11月)
- コロナ禍では近隣の動物園よりも夢見に訪れた人が多かった ⇒ “**身近さ**”が魅力
 - 動物の飼育に关心があり、**動物の健康・施設の向上**を望んでいる
 - 賑やかさよりは**落ち着いた雰囲気**が求められる

民間事業者との対話・意見収集

(平成30(2018)年度～継続的に実施)

- Park-PFIの導入は難しい（立地や採算面から）
- 不安定な社会情勢による民間事業者の体力不足
- 公益的な役割と収益機能の折り合いが課題
- 駐車場の設置管理許可での参入検討は可能
- 飼育や公園施設管理等における指定管理の即時参入は困難、段階的に参入を検討したい
- 近年人件費や光熱費などが上がっているため、運営予算が厳しい

②施設の老朽化や不足による課題

多くの施設で老朽化や、多様なニーズへ対応した整備が必要となっています。

- 園内のバリアフリー化不足（樹木の生長による機能低下）
- 動物展示の魅力低下、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分
- 駐輪場や駐車場の検討不足など



③サービス面の課題

動物を介した体験プログラム、加瀬山の自然や歴史を体験・体感できるプログラムなどを来園者へのサービス面において、**夢見の特長を活かし、多様な主体と協働した取組を充実させる**必要があります。

- 動物園の4つの役割「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」のうち**「教育・環境教育」、「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足**
- 地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足
- 加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

④持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

夢見の魅力を維持しながら持続的な管理運営をしていくために、次のような課題へ対応する必要があります。

①動物の飼育方針・飼育環境改善

- 動物園を継続し、種の保存や調査・研究に貢献するための飼育動物種の継続計画**（コレクションプラン）や、魅力的な展示及び動物の生活環境の充実が必要（環境エンリッチメントなど）

②人材育成

- 動物飼育に関わる専門性の高い業務・知識のノウハウの継承不足
- 接遇スキルやレクリエーションの運営力不足（多様なニーズへの対応、サービスの質の向上）

③持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保

- 持続可能な管理運営のための新たな財源の確保、業務の効率化の課題など

4. 再整備の方向性

7

動物公園の特性や課題・ニーズの把握を踏まえ、3つの視点をもとに再整備の方向性を整理します。

再整備の方向性：老朽化などにより低下した魅力の向上及び社会変容に伴う市民ニーズの変化などに応じた再整備

オープンスペースの利用の多様化、持続可能な管理運営の仕組み、アニマルウェルフェアや環境への配慮などの視点を踏まえた整備を進めます

利用者の利便性やサービス向上のための整備

- ・売店や動物グッズなどの物販機能の検討
- ・動物を身近に感じる体験及び加瀬山の歴史を活かしたプログラムなど特色のある機能や施設の導入検討（サービスや機能向上のため一部有料化の検討）

多様な主体が関わる持続可能な管理運営の仕組みの構築

- ・民間事業者や地域の方との協働の可能性や役割分担などの検討

アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の改善と展示空間の整備

動物種の飼育方針の整理

適切な面積・設備の検討

魅力的な展示

視点①：魅力向上の視点

再整備に向けた検討を進めながら、**魅力向上などの支障となっている一部の施設の整備を行っています**。サービス向上のための施設整備は、市民や来園者、地域で活動をされる方々のニーズを丁寧に把握しながら進めます。

■先行整備の取組

来園者の利便性向上などに資する施設整備として、多目的室や授乳室、多機能トイレなどを備えたパークセンターの新設、東側公園エリアの園路バリアフリー化、動物舎の一部補修とサイン改修などを**先行して行いました**。



パークセンター
(令和6年度完成)



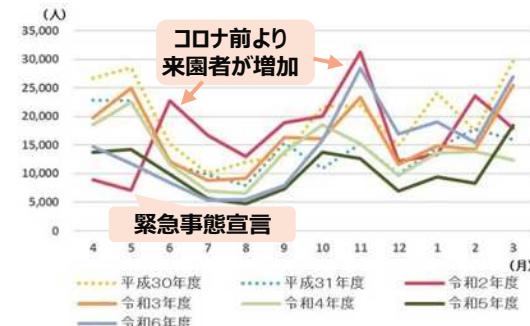
アンケートでも満足度が低かった
トイレの整備 (令和6年度完成)



動物舎の柵や看板の整備
(看板は川崎総合科学高校のデザイン)

視点②：地区公園のオープンスペースの視点

平成30（2018）年度～令和6（2024）年度の来園者数推移



公園の利用効果
休息・休養
子どもの健全な育成
コミュニティ活動など

公園の存在効果
精神的健康
地域ブランドへの貢献
生物の生息環境など

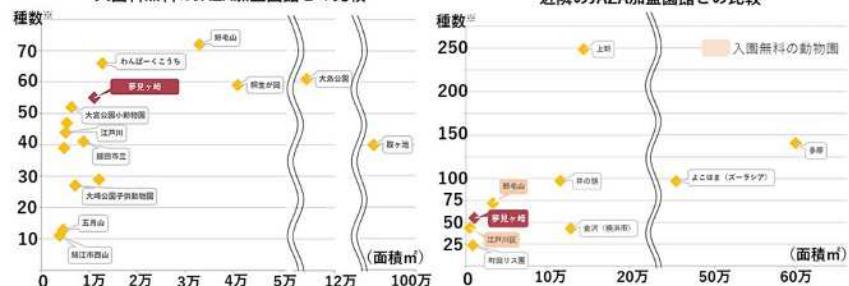


芝生広場（夢見）

コロナ禍では、ゆとりあるオープンスペースとして公園の価値が見直され、夢見においても来園者数がコロナ禍以前より増加した時期がありました。子どもの遊び、大人の健康増進やリフレッシュといった、**公園にあるべき機能や効果を備え、来園者が快適に利用できる開かれた空間を保ちます**。

視点③：アニマルウェルフェアの視点

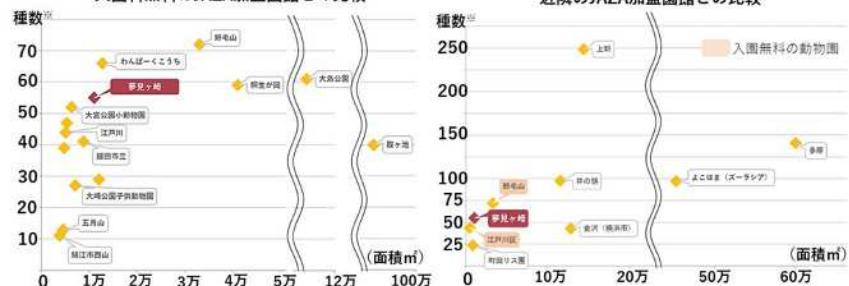
入園料無料のJAZA加盟園館との比較



※令和4年度日本動物園水族館年報をもとに、種数は哺乳類・鳥類・爬虫類の合計で作成

※夢見の動物園部分の敷地面積は11,000m²として計算

近隣のJAZA加盟園館との比較



夢見は、入園無料の動物園の中では飼育種数が多く、近隣の動物園と比較すると、**規模は小さいですが飼育種数は少なくないことが分かります。アニマルウェルフェアの視点から、それその動物種の飼育面積や施設、環境などが適切であるか検討を行います**。

5. 目指すべき将来像

8

夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。

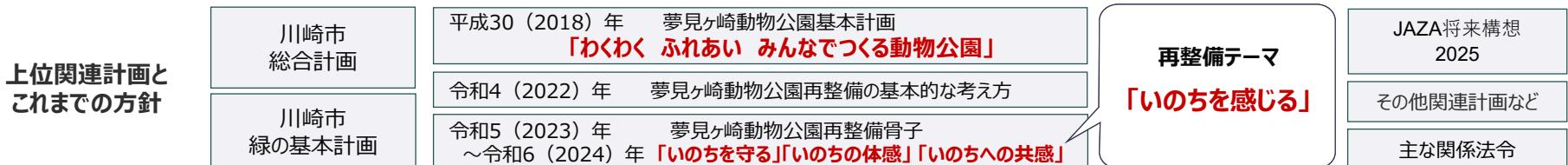


6. 再整備の基本的な考え方

9

6-1 再整備の必要性と基本的な考え方

上位関連計画におけるこれまでの方針、新たな課題や今日的な役割から導いた**再整備の必要性をふまえ、再整備の基本的な考え方**を以下に示します。



再整備により

"**都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場**"としての**動物公園**を創造します。

再整備の理念

- 加瀬山の豊かな自然環境や歴史を活かし、また、野生傷病鳥獣の保護と野生復帰に向けた活動を続けることにより、環境保全と地域社会との共生について人々に伝えます。
- 動物との関わりから、いのちの尊さや他者への思いやりなどの自分ごと化を促します。
- 野生動物と実際に対峙し、向き合うことにより、地球温暖化や森林破壊などの環境問題への深い関心を育みます。
- 来園する人々の心と体の健康を増進し、いきいきとした他者との交流・自己実現のための活動を促進します。
- 「多様ないのちを感じる」動物公園であり続けます。

再整備のポイント

都市公園機能

都市公園(地区公園)としての機能と魅力の向上

まちづくり機能

持続可能な管理運営を担保し、地域のまちづくりに貢献する、多様な主体との連携体制の構築

動物園機能

動物園機能をより一層活かしたいのちを感じる取組・設備の充実

基本方針①

緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

基本方針②

人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

基本方針③

生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

基本方針
<3つの出会い>

6-2 「いのちを感じる」とは

加瀬山がもつ、ここにしかない「いのちを感じる」資源を、里山樹林・公園・動物園の各エリアごとに整理しました。

基本方針①

緑と人が出会う 里山樹林エリア



加瀬山の"夢見"ならではの「いのちを感じる」とは？

- 樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫の生息環境を感じ、知ることができる
- 周囲では見られない鳥類が渡りの途中に羽を休めに立ち寄る特別な場所となっている
- 加瀬山を守ることで自然の営みを実感し、身近に生息する生きものとの共存を考える機会となる
- 鳥獣保護区が、暮らしの身边にあるという特別な環境は住民の誇りにつながる

基本方針②

人と人が出会う 公園エリア



動物園ではない動物公園として「いのちを感じる」とは？

- 公園での世代の異なる人々との関わりが、人のいのちについて気づきの機会を与えてくれる
- 樹木管理や季節の催しなど、地域との関わりが健康づくりや生きがい創出を生み出している
- 古墳・社寺など歴史資源や、年中行事を通じ、伝統や文化など人の営みにふれることができる
- 戦没者を祀る慰霊塔が、学ぶべき歴史と平和の大切さを伝えている

基本方針③

生きものと人が出会う 動物園エリア



より身近に動物に関われる夢見の「いのちを感じる」とは？

- 飼育員さんに気軽に話しかけられる、園長さんに気軽に会える恵まれた環境である
- 動物のリハビリを知り、関わる環境が、いのちの大切さを伝える言葉に重みを与える
- 都市の中で、様々な動物と会える貴重な場である
- 夢見は身近で、いつでも、何度も訪れて、ゆっくり、じっくりいのちと向き合うことができる



6. 再整備の基本的な考え方

11

6-3 「いのちを感じる」環境づくり

3つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくります。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と
人の営みを体感できる

里山樹林エリア

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ

いのちを感じる取組



協働による樹木管理活動
(里山へGO! HPより)



落ち葉のコンポスト



保育園のお散歩利用



発生材を活用した解説板

整備イメージ

- 樹林地内に市民協働により管理する際の集合場所を整備し、樹林地管理を支える施設や休憩場所を設置する
- 日常的な散歩・散策の際に自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと会える安全管理や地域の憩いの空間づくりを行う
- 活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板を設置する

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、
協調・協働するすべを考えられる

公園エリア

いのちを大切にする行動につながる

いのちを感じる取組



動物が散歩できる園路



子ども達が集う遊具



支援方法の拡充



パークセンターの地域活用

整備イメージ

- 来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路や夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設を整備する
- 顔となる遊具などを中心として自然と人が集まつくる柔軟な遊びの空間を整備する
- 市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備や更新を行う
- 広場やパークセンターを夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなど柔軟な活用が可能な空間として整備する

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

動物園エリア

いのちの鼓動に心が動く

いのちを感じる取組



いのちを伝えるサインの工夫



飼育員の解説



動物の習性を考慮した
動物の展示



いのちを感じる取組を身近に
感じる施設

整備イメージ

- 動物を触るだけではない、脳と心が喜ぶ「ふれあい」を提供するアニマルウェルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境への理解が進む情報発信を充実する
- バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境を充実させ、やりがいをもって働ける環境づくりを行う
- ゆっくり動物を眺め観察することができる、居心地よく利便性のある空間づくりを行う
- 調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置する

6. 再整備の基本的な考え方

12

6-4 「いのちを感じる」プログラム

民間パートナーのノウハウを活用し、より「いのちを感じる」体験プログラムを拡充し、リピーターの増加や新たな収入源の確保を目指します。

みる きく かぐ 味 ふれる

加瀬山の環境リサーチ 自然を五感で感じる

気温・湿度・騒音・空気の味。都市に比べてなぜ自然の中は心地良いのか、五感を使って自然の大切さ、保全活動の重要性を学びます。



公園で集めた音で音楽づくり
(うめきた公園/大阪市)
(PLAT UMEKITA HPより)

樹林ボランティア
(夢見)
(PLAT UMEKITA HPより)

みる かぐ 味

食べることは生きること！ 動物の食べものからうんちまで

工サの準備のお手伝い、工サとなる植物を育ててみる体験、同じ食べものを食べてみたり、また食べものによるうんちのちがいを学びます。



エサづくり体験
(市川市動植物園)

幻の「大うんち展」
(横浜ズーラシア)

みる きく ふれる

加瀬山のいのちの歩みとは？ 歴史探訪と生きものの調査

昔はどんな生きものがいた？どんな暮らしをしていた？地域や人の歴史と生きものを一緒に学べる、夢見ならではの体験を目指します。



大正時代の行事をテーマとしたすごろく体験
(国立歴史民俗博物館HPより) 昆虫教室
(広島緑化センターHPより)
ボランティアや加瀬山の会、大学連携により実施

みる きく

動物の得意！を披露 見て・聴いて驚き、感動する

人と暮らしてきたロバは、人に合わせて歩いてくれる。鳥は当然のように空を飛ぶ。近くで動物の得意！を観察し、動きや習性に驚き、学びます。



ロバの散歩
(京都市動物園)

バードショー
(松江フォーゲルパークHPより)
リハビリや飼育の一環として実施

みる

いのちを守る最前線を見学 保護鳥獣の観察・職員との交流

野生保護鳥獣の観察や、職員の職場見学など、夢見のいのちを守る取組に触れ、自分に何ができるか？考えるきっかけづくりをします。



保護鳥獣の観察
バックヤードツアー
(猛禽類医学研究所 HPより)

動物園まつりでの
バックヤードツアー（夢見）

7-1 全体の空間構成

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

里山樹林 エリア

緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

- 【再整備を検討する主な施設】
 - Ⓐ 樹林管理の拠点
 - Ⓑ 階段・散策路
 - Ⓑ 児童公園
 - Ⓒ 駐車場



里山体験教室イメージ
(里山へGO! HPより)

④交流の 拠点

動物園にきた！というワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導サインや案内板



動物モチーフのサイン
(のんほいパーク)



エントランスの演出
(盛岡市動物公園)

公園 エリア

人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する

- 【再整備を検討する主な施設】

- ⑤「う回路」入口・パークセンター南側
- ⑥駐車場からの入口
- ⑦展望広場
- ⑧エントランスのロータリー
- ⑨慰霊塔付近
- ⑩芝生広場
- ⑪慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ

動線

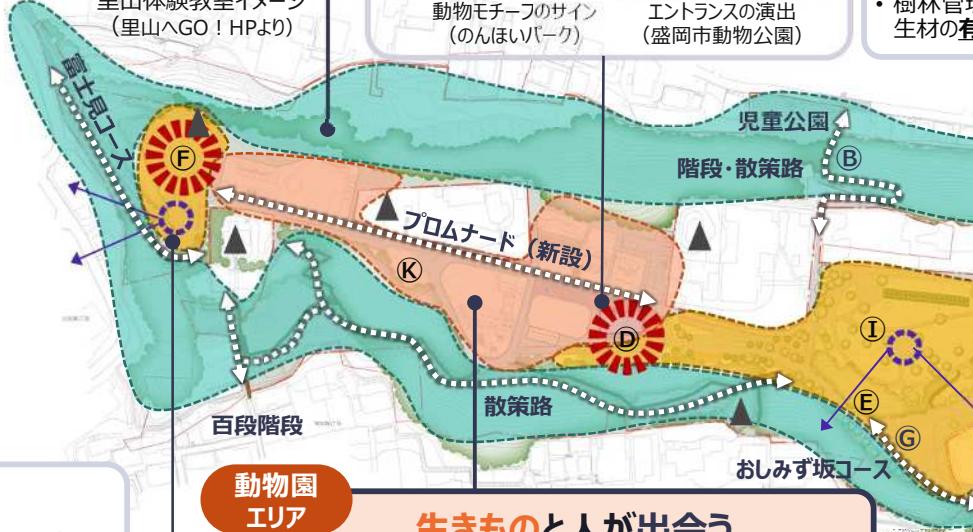
- ・ジョギングなどの通過、散策と“たまり場”的バランスに配慮した園路
- ・安全に楽しみながら歩ける舗装の整備
- ・災害時などにおける緊急車両などの進入路や避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

⑤憩いの拠点

- ・富士山、街の景色の眺望を楽しめる空間
- ・シンボリック性の高いデザインのトイレやゲート
- ・眺望を楽しみながら休みたくなる休憩施設



ベンチ・テーブルの配置
(虎渓用水広場) 富士見デッキの眺望 (夢見)



生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

- 【再整備を検討する主な施設】
 - ⑯ 広場、動物展示、動物病院、調理場、隔離室など



動物病院イメージ



動物舎イメージ

⑪にぎわいの拠点



キッチンカーの出店 (夢見) 芝生広場 (夢見)

公園全体

- ・園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- ・園内各所に飼育動物、加瀬山の野生動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置



発生材アート作品 (吉野ヶ里遺跡)

7-2 動線

ジョギングなどの通過、散策と“たまり場”的バランスに配慮した園路とします。また、安全に楽しみながら歩けるよう舗装などの整備を行います。

富士見コース

- 加瀬山の自然と歴史を伝え、動物園エリアへの誘いのサインなどの整備
- 歩きながらペンギン、シマウマなど動物の歩幅を体感したり、あと何mで公園！など楽しく歩きたくなる仕掛け



百段階段コース

- 階段の昇り降りで、心身の健康に貢献する動線
- 現状維持とする

散策路

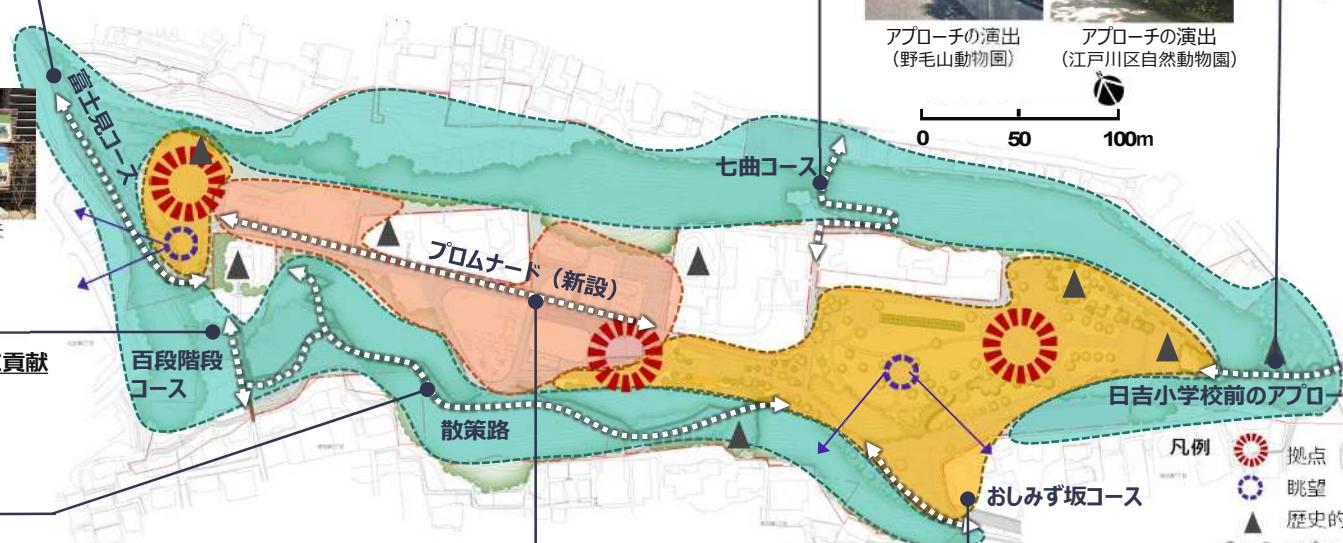
- 「寄り道」気分の自然散策路
- 加瀬山の会と協働で安全な散策路を維持
- 野鳥や昆虫の観察会、鳴き声を聞くなどのプログラムを実施



緑豊かな散策路（夢見）

七曲コース

- 踏面の安全性（勾配の改善、滑りにくさなど）を考慮し利用しやすい階段として改修
- 展示動物の彫刻や間伐材などの発生材を利用したアート作品を設置するなど動園公園へ向かうワクワク感を醸成できる空間づくり



プロムナード（新設）

- 高木の列植など動物園エリアだけでなく慰靈塔から西側の展望広場へつながる夢見のシンボルプロムナードとしての整備
- 動物園エリアの骨格となるメイン動線として幅員4~6mを確保



グランモール公園（横浜市）
(みなとみらい21HPより)



掲示板イメージ
樹名板イメージ



アプローチの演出
(野毛山動物園)
アプローチの演出
(江戸川区自然動物園)

0 50 100m

日吉小学校前のアプローチ

- 周辺樹林地の適正な管理を市民協働で進めていく場
- 加瀬山の歴史や自然への思いを巡らせる空間づくり
- 動線沿いに、加瀬山の歴史や夢見でみられる動植物・昆虫などの彫刻などを適宜配置



発生材を利用した解説板
(東山動植物園)



山猫の檻を覗く山猫の彫刻
(東山動植物園)



エントランスの演出
(京都市動物園)

防災・非常時

災害時などにおける緊急車両などの進入路の確保や避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

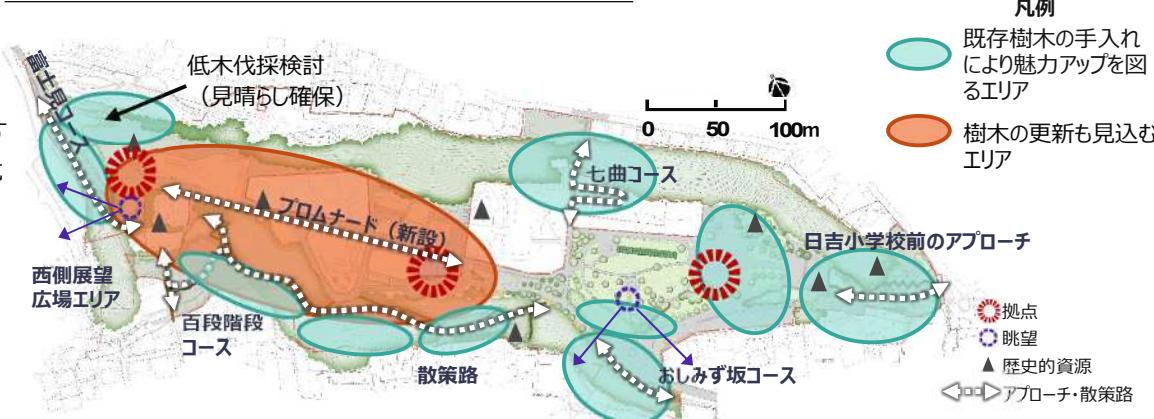
7-3 植栽の考え方

公園全体の考え方

- 既存の高木の緑陰を活かしながら、安全性を考慮した見通しの確保、景観の充実による魅力向上などのため、高木の剪定などを行います。
- ただし根上がりが著しく、利用にあたって危険や支障が伴う樹木や、再整備に向けて施設などの支障となる樹木は、公園利用にあたって適切な位置に更新します。
- 管理や整備による発生材は、コンポストや工作の素材として再利用の検討をします。

西側展望広場エリア

- 剪定により**眺望、富士山への見晴らし**を活かす
- 根上がりなどで利用に危険が伴う**樹木は更新**
- 新植する樹木は**季節の移り変わりを感じられる樹種**とし、印象深い空間づくりをする
- 低木は伐採とする**



樹林地の考え方

- 倒木等により**来園者や住宅、広場、園路等へ被害が及ぶ恐れのある支障木を、優先的に伐採する。**
- 加瀬山特有の風景の維持や生物多様性の確保に向け、**立地条件や植生などの条件を整理し、樹木等の整理・更新**を行う。
- 樹林地を活用した**協働プログラム等**を検討し、維持管理への関心や参加を促す。

樹木を更新するエリアの考え方



日吉小学校前のアプローチ周辺

既存樹林の剪定・伐採、下草刈りなどを行ふ。市民と協働で樹林管理が行える樹種などを検討する。

広場、散策路など

適切な樹林の明るさ確保や緑陰効果の向上、見通しの確保などのため剪定をする。

おしみず坂などアプローチ

樹林の剪定、間伐などを行い、見通しをつきりさせる（明るいイメージにする）。

プロムナード (新設)

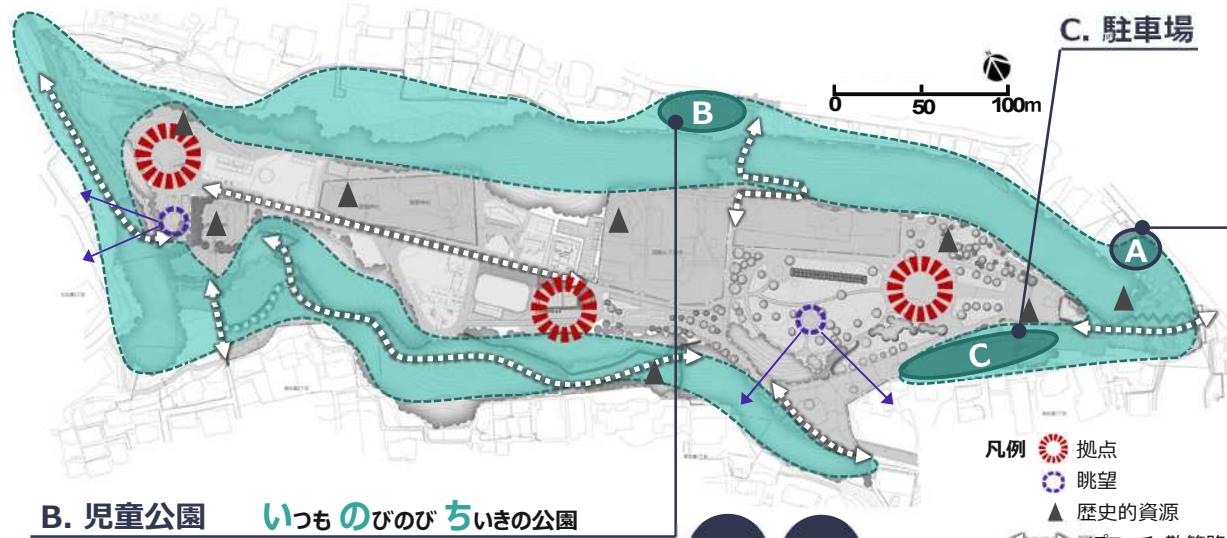
高木の列植などで全体の骨格となる印象づけをする。

- 利用者への**安全性確保**（根上りや落枝、倒木の危険性や見通しの確保など）を考慮する
- 電気や給排水設備、トイレや動物舎などの**基幹設備の更新**に向けて、**支障となる樹木は更新する**

撤去する樹木：33本
更新する樹木：33本以上

※今後の詳細な検討により変更となる可能性があります。

8-1 緑と人が出会う



- ・川崎市福祉のまちづくり条例に適合した入口の改修
- ・周辺公園を加味し、特徴ある公園づくり
- ・敷地面積（約700m²）を考慮した公園づくり（小学校低学年以下など、対象年齢を絞る）
- ・遊具やベンチなどの施設は、夢見でみられる生きものや出土品を連想できるデザインとし、動物公園全体や地域の歴史への理解や愛着の醸成へつなげる



動物モチーフの施設
(豊中市原田公園)



動物モチーフの施設
(メーカーカタログより)



動物モチーフの遊具
(メーカーカタログより) 歴史モチーフの遊具
(熊本県立装飾古墳館HPより) 植物モチーフの遊具
(メーカーカタログより)



地形を活かした施設
(メーカーカタログより) 広場イメージ
(読谷村古堅第二公園/読谷村HPより)

・現状面積を維持

- ・民間パートナーとの協働により、駐車場区画の見直しを実施
- ・近隣駐車場等との連携を図り、来園者の利便性を向上

A. 「いのち」を「みつけ」「まもり」「育てる」拠点

さく
かぐ
みる
ふれる

- ・日常利用として散歩・散策の際の休憩など、地域の憩いの場として静的な空間づくり
- ・周辺樹林地を市民協働により管理する際の集合場所として整備し、樹林管理のプログラムを考え、実施するための「拠点」とする
- ・里山の手入れを通じて、自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものとの出会いから気づきを得る場
- ・手入れへの参加により、近隣の方々との会話やふれあいが生まれ、地域のつながりを深めるきっかけの場
- ・10人程度が活動できる四阿・テーブル・ベンチに加え、手洗い施設や必要に応じて倉庫、資材置き場、落ち葉のコンポストなどを設置



発生材を利用した解説板
(東山動植物園)



協働による樹林管理活動の例
(多摩東寺方緑地保全地域/里山へGO! HPより)



落ち葉のコンポスト
(GOOD NEWS NEIGHBORS) 里山体験教室
(さいたま緑の森博物館/里山へGO! HPより)

8-2 人と人が出会う (D,E,F)

F. 展望広場

みる かぐ ふれる

- 市街地への眺望、富士山への見晴らしや既存のサクラを活かしたのびのびとした広場空間として整備
- 展望デッキ、日除けなど休憩施設を更新し、ベンチやテーブルを新設
- 複合遊具は撤去、芝生エリアに新設し、広場主体の空間づくり
- 施設デザインは、動物園エリアの動物を連想させるデザインとする
- 公園へのアプローチ動線と動物園エリアの骨格となるシンボル動線の「結節点」として印象的な、花見ができるなど季節感のある樹木を中心とした空間
- 「結節点」にシンボル機能を持った施設を設置（シンボル性の高いデザインのトイレや時計塔、ゲートなど）



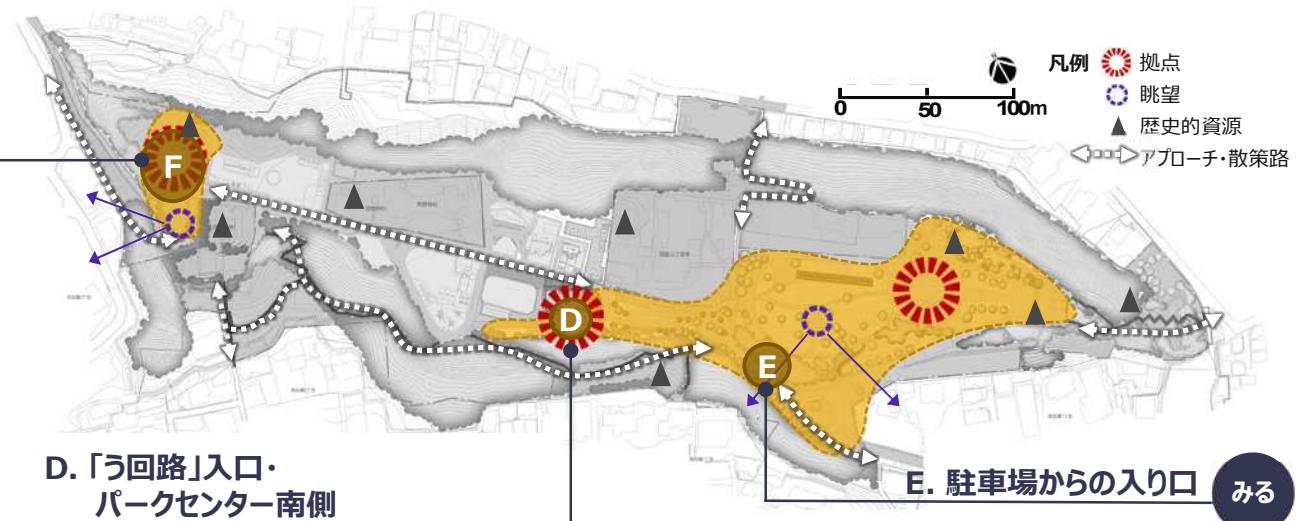
動物のイラストをデザインした動物舎の壁面（天王寺動物園）



エリア入口の演出（京都市動物園）



ベンチ・テーブルの配置（虎渓用水広場）



D. 「う回路」入口・パークセンター南側

かぐ ふれる

- 花木・草花や舗装パターンなどで演出し、パークセンターとの一体感を演出
- 公園利用者にとって休憩や小規模なイベント利用もできる広場空間
- 動物病院整備の際の「仮設病院機能」を活用し管理活動の暑熱対策として休憩小屋などの設置を検討



エントランスの演出（布引ハーブ園）



エントランスの演出（京都市動物園）



体験イベントのイメージ

※小規模なイベント：
間伐材を利用した小物や動物用遊具製作などの工作イベントやアート展示イベントなど

- 自動車利用者のメインエントランスとしてのゲート機能
- ゲートやシンボルツリー・草花で出迎えの空間を演出
- 旧売店エリアは、情報発信エリアとして改修し、公園全体マップに加え、展示動物や加瀬山の歴史、「夢見ヶ崎」の名称の由来などを紹介する
- 飼育動物やイベントの最新情報を伝えるデジタルサイネージを設置を検討



檻を再利用したバーゴラ（とべ動物園）



エントランスの演出（上総更科公園）



サインの例（天王寺動物園） 情報発信施設の例（東山動植物園）

8. 施設配置計画

公園エリア

18

8-2 人と人が出会う (G,H,I,J)



I. 芝生広場

かぐ
ふれる

- ラジオ体操、犬の散歩、ボール遊び、お花見、地域の行事など柔軟な活用ができる広場
- 展望台は撤去、緑（カイヅカイブキ）のトンネルは維持
- 動物や加瀬山にちなんだテーマ性のある複合遊具などを中心とした遊びの空間を整備
- 遊びの空間は、児童（6歳～12歳）と未就学児（6歳未満）ですみわけができる空間づくりを行う**
- 芝生広場の休憩施設はテーマ性のあるデザインのベンチ・スツールなどを検討（動物や昆虫の姿・形を模した形状など）



遊具のイメージ



遊具配置のイメージ

J. 慰霊塔前広場

みる
味わう

- 遮熱透水性インターロッキングブロック舗装などによる円形広場に改修し、象徴的なデザイン※となるような工夫を行う
- 舗装構成は、キッチンカーなど車両乗り入れが可能な舗装構成**
※例：古墳群から出土した銅鏡模様を舗装パターンとするなど
- 広場内は、イベント等が可能なオープンスペースを確保しつつ、適宜樹木とベンチを配置し、休息できる設えとし、広場全体が慰霊塔に向かう静的空間となるような整備

※広い舗装面となるため、樹木を舗装内にも配置し木陰を作る。



広場のイメージ（大塚駅前広場）

凡例
● 抛点
○ 眺望
▲ 歴史的資源
➡➡➡ アプローチ・散策路

H. 慰霊塔付近

ふれる
きく

- 戦没者慰霊のための広場空間として現状を維持
- 舗装などの老朽化に対応し、舗装の更新や樹木の剪定、不要施設の撤去などを行い、慰霊のための空間としてふさわしい格調高い空間づくり

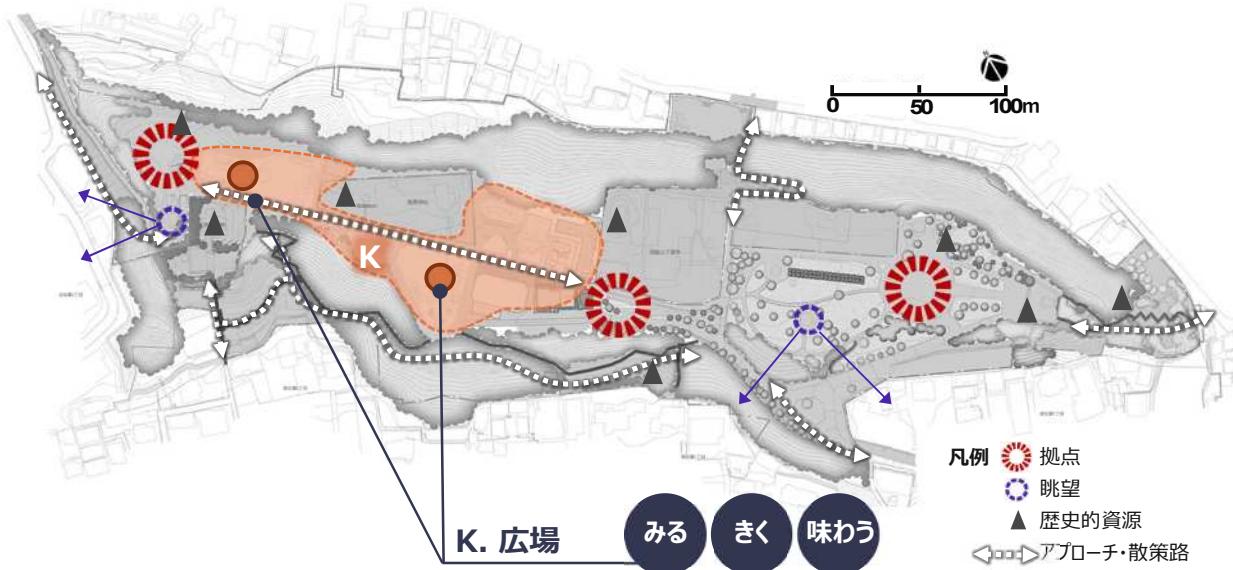


格調高い舗装のイメージ 休憩スペース（神戸市東遊園地）

G. エントランスのロータリー

- 現状維持
- タクシーの転回や、駐車場が満車であった場合の転回スペースを維持
- 民間パートナーとの協議によりロータリー空間の見直し（駐車場の満車・空車のわかる看板などの設置も含む）

8-3 生きものと人が出会う



- ・動物園エリア内に遠足などの利用時の説明、お弁当、休憩などのためのスペースを整備
- ・子ども（小中高生）や若者（高校生や大学生など）の居場所として、動物たちを見ながらゆったりと時を過ごせる場所
- ・屋根のある休憩施設を設置し、雨天時でも休憩でき、昼食などが食べられるようにする
- ・動物の形状を模したベンチやスツールなどを設置、動物園エリアの各所の特徴を表した設え
- ・手洗い場を設置し、利用者の衛生面にも配慮した空間づくり



動物のシルエットが浮かぶパーゴラ（メーカーカタログより）



動物モチーフのベンチ（ズーラシア）



動物展示・動物病院など

ふれる みる かぐ きく

- ・老朽化やアニマルウェルフェアに対応するための動物舎整備
- ・動物の本来の行動を引き出す環境エンリッチメントの充実、子どもの目線やバリアフリーに配慮した展示など観覧環境の充実
- ・来園者と職員の安全確保を考慮した、園路など動線、施設の整備

手のひらサイズのリスの彫刻
(東山動植物園)動物病院イメージ
(ドバイアルコンホスピタル)観覧しやすい園路
(天王寺動物園)シカの獣害とライオンへの給餌に関する
掲示物（のんほいパーク）

8-3 生きものと人が出会う

飼育動物の考え方

動物を飼育・保護するという役割を担う動物公園が、次の100年も継続していくためには、一般的な公園とは異なる視点から施設・環境の整備を進めていく必要があります。具体的には、飼育動物の種の保存や寿命などを考慮した繁殖・調整・導入の計画的な実施に加え、アニマルウェルフェア（栄養、環境、行動、健康、精神）および環境エンリッチメントの観点から、動物の生態や習性に配慮した施設整備が重要です。

また、来園者が動物を「知り、関わり、好きになる」体験を通して、子どもの健やかな成長や、来園者の心身のリフレッシュにつながる取組を充実させるための施設・環境整備も合わせて進めていきます。

今後飼育していく種の計画作成

支える

計画の視点

- ▶ 種の保存への貢献の視点
- ▶ 環境教育、情操教育などの教育的視点
- ▶ 飼育継続性の視点
- ▶ 動物公園での実績の視点
- ▶ 動物を介在した取組への発展

今後飼育していく種のニーズを満たすことのできる施設整備

コレクションプランと施設整備の考え方の例

- ・ 動物を好きになってもらうプログラムが実施できる動物種・施設整備の検討
- ・ いのちを守る取組を伝え、市民の参加を促進する施設整備（動物保護施設の充実など）



エサづくり体験
(市川市動植物園)



バックヤードツアーなどの充実に向けた整備
(夢見)



保護活動（夢見）ガラス張りの施設（海外事例）
保護鳥獣のリハビリや保護活動を知つもらう施設

コレクションプランの考え方

飼育している一部の動物種においては、高齢化や近親交配が進み、今後の繁殖が困難と考えられる動物種も存在します。持続可能かつアニマルウェルフェアに配慮した飼育体制を確保し、今後も動物園としての役割を果たすために、飼育動物種の継続計画「コレクションプラン」の考え方を整理します。

コレクションプランは、教育的価値など動物公園の将来像を踏まえた視点、動物の特性や他の動物園の動向などを踏まえた専門的な視点、人気の動物種など客観的な視点から総合的に判断します。また、飼育動物種数・個体数の動態を踏まえ、必要に応じて適宜見直します。

多様性の発揮・
教育的価値など

将来像を踏まえた視点

3つの視点のバランスを重視した
コレクションプラン

専門的視点

動物特性と他園館の動向、有識者の意見など
(動物種の生態、希少性、繁殖可能性、JAZAコレクションプランへの準拠など)

レッサーパンダ・ペンギンなどの人気の種や
体験プログラムの市民ニーズに対応できる種、文献などによる動物の生態調査

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子に一部加筆

- ・ SNSを活用したプロモーションによる愛着や物語性が来園の動機づけとなるような動物種と効果的な見せ方のための施設整備や展示の工夫



LIVE配信の取組
(鳥羽水族館)



SNS映えする工夫
(ユニークなフォトスポット/東山動植物園)



Xでの広報活動
(夢見)

8-3 生きものと人が出会う

コレクションプランの考え方

現飼育個体については継続して飼育していくこととし、飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、**将来的に計34種 (+a) を継続して飼育する方針**とします（現飼育個体の令和17（2035）年度における自然減想定は約46種）。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、JAZAコレクションプラン掲載種など、国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種は、**今後も新たな種の導入を継続的に検討**していきます。

飼育を継続する種	考え方	動物園としての役割・取組内容など	動物種の例
	新規に導入する種	現飼育個体をもって飼育を終了する種	動物種の例
飼育を継続する種	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種 近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種 人気種等市民ニーズの高い種 魅力増進に対応する種 	<div style="background-color: #ff9933; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; text-align: center;"> 種の保存・ 野生生物保全 調査・研究 教育・環境教育 レクリエーション 情操教育、 環境教育など </div>	<ul style="list-style-type: none"> 種の保存への貢献その他これまでの実績などを勘案し、積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続する 状況に応じて個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続する <div style="background-color: #00aaff; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; text-align: center;"> 川崎市環境教育・ 学習アクションプログラムなどへの貢献 生物多様性かわさき戦略などへの貢献 </div> <p style="text-align: right;">【34種】</p>
新規に導入する種	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖や新規導入が困難な種 他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種 外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種 	—	<ul style="list-style-type: none"> 種の保存や個体の状況などを勘案し、他の飼育継続する種の飼育スペース確保のため繁殖させず終生飼養する 園内で繁殖ができず、国内の他園からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ないなど）は現個体の終生飼養後に飼育を終了する 飼育終了までアニマルウェルフェアに配慮し、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める 外来種、特定外来種等は飼育種としての定着を想定しない
現飼育個体をもって飼育を終了する種			<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="flex: 1;">  <p>シエンレッサー・パンダ 幅広い世代に人気の動物 環境教育等にも有効</p> <p>EN JSMP</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>フンボルトペンギン ペアでの子育て・群れでの行動等教育的效果 VU JSMP</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>バラワンコクジャク JAZAにおける国内血統登録担当動物園として他園館と連携 VU JSB</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>ホンドタヌキ 日本の里山管理への意識、野生動物との関わり方の学習への効果等 VU JSB</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>アカオヒメシャクケイ 国内で飼育されているのが全てオスであり、メスの導入ができないため自然減とした CR JSB</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>クモザル 現個体は（亜種不明のため）繁殖・搬出不可であり獣舎スペース等の問題から調整とした CR JSB</p> </div> </div>

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。

コレクションプラン

コレクションプランの考え方により夢見で飼育管理する種を①推進種②維持種③調整種④対象外の4つのカテゴリーに分類します。このコレクションプランに加えて、夢見の魅力増進に対応するための新たな種の導入については継続的に検討します。夢見の「いのちをまもる」取組の一つに、野生傷病鳥獣の保護活動があります。地域に住む野生動物を知り、人と野生動物との関り方を改めて来園者に考えていただくために、飼育の継続が必要であると判断し、再整備計画骨子からの更新として、野生保護種であるホンドタヌキ、オオタカなどの一部を「対象外」から「推進種」「維持種」に変更しました。（コレクションプランは巻末参照）

参考①：国際自然保護連盟（IUCN）による
動物種のレッドリスト分類（絶滅の危険性）
高→ CR EN VU NT LC 低
深刻な危機 危機 危急 準絶滅危惧 低懸念

参考②：JAZAのコレクションプランで指定されている種（2024年1月5日時点）
JSMP JSB 維持
管理種 登録種 維持種

8-3 生きものと人が出会う

展示施設の整備方針

動物舎

動物の飼育環境の改善、展示機能の充実、来園者と職員の安全確保などを考慮し、**より一層動物園としての役割を果たすための施設整備**を行います。

- ・**アニマルウェルフェアや環境エンリッチメントを考慮した施設や、職員・動物の安全を考慮した施設**
- ・**動物の逸走防止**を考慮した構造（二重扉など）
- ・来園者が安心して観覧できる動線整備や広場などの設置
- ・夏の暑熱対策を考慮した飼育環境、観覧環境
- ・子どもの目線や車いすなどバリアフリーに配慮した、**誰もが見やすい展示施設**
- ・（今後の課題として）動物の**間接飼育**を可能とする設備構造

■配慮事項について

- ・**JAZAの適正施設ガイドライン等**がとりまとめられている動物種については、これを参考にしながら飼育環境、飼育面積などを設定し整備します。
- ・コレクションプランに基づき、**園内での繁殖を目指す動物種はそのための繁殖に必要な面積、部屋数などを確保**します。また、感染症や、傷病動物・高齢動物などの隔離スペースの充実も併せて検討します。
- ・工事に伴う騒音や移動が飼育動物に極力影響を及ぼさないような整備方法及び種や個体の状況に応じた施設配置を検討します。
- ・動物の移動には細心の注意を払い、**生態や習性に配慮した移動方法や移動距離**を考慮した施設配置計画を立てます。

■JAZA適正施設ガイドラインの一例

動物種	JAZAガイドライン記載の基準	
	飼育面積の基準など	その他
レッサーパンダ (1頭ないし2頭放飼の場合)	屋内：最低22m ² (40m ² 程度が望ましい) 屋外：最低22m ² (40m ² 程度が望ましい)	屋内：高さ3m程度 樹木、休憩台など 屋外：樹木や遊び木など
フンボルトペンギン	屋外：6羽までは1羽あたり1.2m ² プール：6羽までは1羽あたり1.0m ² 、水深 0.5m	擬岩や木製の巣箱など

バックヤード・病院・保護施設

動物の安全はもとより、職員の働きやすさや安全を考慮した整備を行います。

- ・安全で効率的な管理動線の整備
- ・傷病動物や感染症への対応を適切に行うための動物隔離施設や保護施設の充実
- ・野生傷病鳥獣の受け入れや野生動物リハビリセンターの活動が充実し、来園者が一部観察可能なバックヤード整備
- ・大学など学術機関との連携をより一層深化するためのバックヤード整備



動物病院イメージ
(ドバイアルコンホスピタル)

防犯・防災・感染症対策などの危機管理に関する施設

展示動物の**防犯対策、動物の健康危機管理、地震など自然災害に対する防災対策**のために必要な施設（ハード）を整備します。

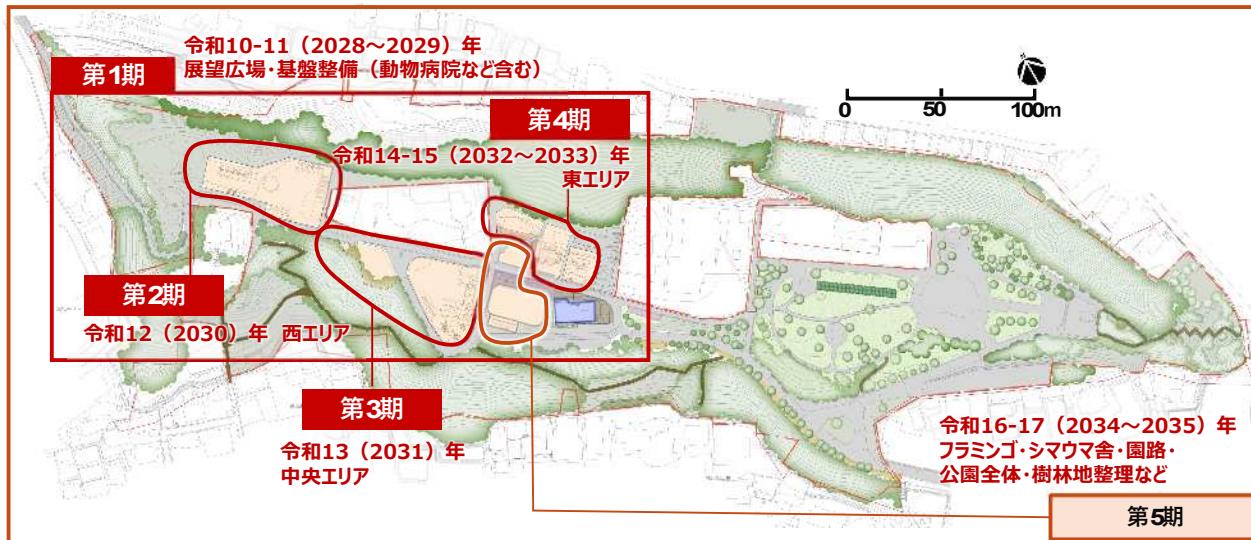
また、それらの**運用（ソフト）**についても検討します。

項目	ハード	ソフト
防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置 ・ゲートの新設 ・配置により死角を作らないような工夫など 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策の強化 ・市民や民間事業者との連携など
動物の健康・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザなど感染症対策を考慮した施設 ・隔離施設の充実 ・配置による工夫など 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの整備など
防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラのバックアップ（水・電気・太陽光発電や蓄電）、ガスなどは充分な予備を設ける ・飼料や備品の備蓄が可能な施設整備 ・耐震設計とし、災害時に来園者・職員・動物の受傷、動物の逸走を防止する構造 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園部分含む避難訓練の実施、地域との連携強化 ・マニュアルの整備 ・飼料や備品の備蓄量の検討など

再整備における公園全体の概算事業費

計画期間の概算事業費は、次のとおりです。※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります。

段階的整備を進める中で、工事で得られた知見等は次期工事に反映させるなど、より良い施設整備に努めます。



■全体概算事業費

項目	適用	金額（億円）
獣舎	レッサーパンダ舎・ペンギン舎・サル舎・インコ舎・小動物舎等	28.2
バックヤード	動物病院・動物隔離施設・調理室等	6.9
広場と遊具	遊具・休憩施設・芝生・小公園整備等	3.0
利便施設	西側広場のトイレ	0.5
全体	園路・給排水や電気などのインフラ・埋蔵文化財調査・撤去費等	14.6
総額（消費税込み）		53.2 億円

■段階整備概要・段階整備費

設計期間	整備年度	主要施設	金額（億円）
第1期	令和8（2026） 令和9（2027）	基本設計・詳細設計	0.8
	令和10（2028）	（展望広場、基盤整備）展望広場部整備（デッキ・休憩施設・外周柵・トイレ等）、インフラ本管整備、仮設病院、パンシェ・マーモ舎撤去、舗装復旧等	4.0
	令和11（2029）	（基盤整備）既存バックヤード施設撤去、キューピール、受水槽、動物病院、動物保護施設、隔離施設、調理室等新設	7.0
第2期	令和12（2030）	（西エリア）キジ舎、スマ舎、ヤギ舎、ロバ舎、小獣舎、詰所、猛禽類・クジャク舎、インコ舎、周辺外構一式	7.2
	令和13（2031）	（中央エリア）サル舎、レムール舎、パンシェマーモ舎、カメ舎、小動物舎、シカ舎、周辺外構一式	8.4
第4期	令和14（2032）	（東エリア）マーコール舎、レッサーパンダ舎、ペンギン舎ポンプ室、ろ過器	5.7
	令和15（2033）	（東エリア）ペンギン舎	9.2
第5期	令和16（2034）	（その他）フラミンゴ及び周辺外構一式、スマウマ舎、動物園エリア主園路、動物園エリア照明灯一式	5.2
	令和17（2035）	（公園エリア）幼児用大型遊具・児童用大型遊具、舗装広場改修、慰靈塔周辺舗装改修など、休憩施設・サービス施設等一式、北公園改修、東小広場改修、アプローチ・散策路改修、樹林地整理、サインなど	5.6

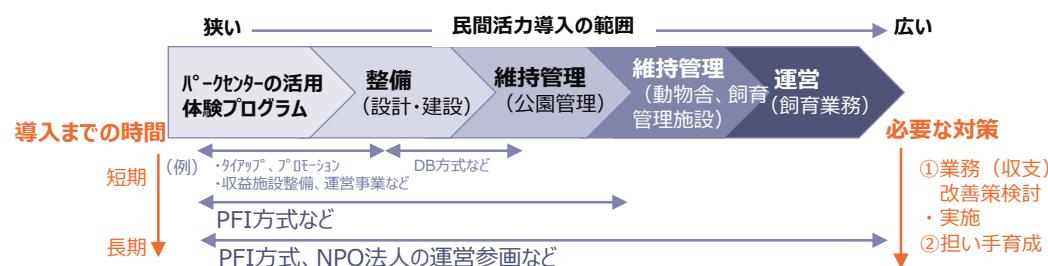
随時調整 駐車場（民間パートナーとの協議、調整により整備検討、設計など）

基本的な考え方

川崎市では、「民間活用(川崎版PPP)推進方針(令和7(2025)年)」および「パークマネジメント推進方針(令和3(2021)年)」に基づき、官民連携による適切な事業手法を検討し、適用する業務の性質や安全性、費用対効果などを十分に考慮した上で、民間活力の効果的な導入を検討しています。

■ 民間事業者との連携の可能性

令和4年度及び令和6(2024)年度に行ったPPPプラットフォームの意見交換会では、施設整備に関しては「参入に効果的なスペースや動線を確保してほしい」、管理運営に関しては「自然や生き物を活かした教育プログラムの展開は可能」などの意見を頂いておりますが、公園施設整備における民間活用事業への意欲のある事業者は確認できませんでした。



■ 施設整備が必要な範囲と規模

本事業は**動物公園全体が対象**である（約6.6ha（麓の公園や樹林地等含む））。
 ①電気・水道等のインフラ設備
 ②更新時期を迎える公園施設・動物舎・バックヤード施設
 ③アニマルウェルフェアへの対応が不十分な動物関連施設
 ④運営・利用にあたり支障や危険を伴う樹木の更新
 ⑤市民・民間との協働を可能とする拠点・休憩所等の新設
 ⑥安心・安全で快適な運営・利用のための施設整備（休憩施設の増設・動物のセカンドキャッチ（逸走防止措置など）、暑熱環境への対応・非常時のバックアップ等）
 ⑦防災、感染症などの危機管理対策の整備

再整備の事業手法の検討結果

本事業は、飼育動物を移動させながら行う段階的な整備が必要となり、一括発注の効果が限定的で、動物舎や病院施設などは特殊な施設のため、民間ノウハウの活用やコスト縮減が期待できず、工事期間短縮などがそれほど期待できないことがわかりました。

また、飼育動物に配慮した整備が求められることなどから、一体的・包括的な整備や維持管理が困難です。一方、従来手法で実施した場合は、動物園業務を円滑に、的確に対応可能とする施設の設計ができ、地域経済の活性化の観点から市内事業者の参画が見込まれます。以上より、今後の夢見の整備は設計・施工分離発注方式により実施することとしますが、再整備の進捗状況に応じて、事業者の参入意欲の確認などを実施します。

■ 整備手法の検討結果

評価項目	整備手法	民間活用手法		
		従来方式	DB方式	DBO方式
定性評価	手法概要	市が設計と工事を発注(仕様発注)する設計と施工を分離	譲り受け施工を一括発注、設計段階から施行者のノウハウ反映	設計・建設・運営まで実施
	施設用途への対応	○	△	△
	スケジュール	○	○	○
	参画可能性	通常の工事発注の為、地元企業からの参画が見込める		参画希望する事業者が見つかっていない
	地域経済の活性化	○	△	△
	事務負担	地元企業が参画しやすい	動物園の設計は難易度が高く担える事業者は限られているため、コンソーシアムの形成が課題、工事は地元企業の参画を要件化（又は加点評価）による対応が可能	
定量評価	コスト	従来方式は、個別に発注、監督と事務負担大	整備と運営が別発注なのでPFI等に比べて事務負担大	整備から運営まで一体で契約する為、整備後の管理発注が不要
	評価	○	○	△orx

持続的な運営手法の検討結果

夢見全体を一括した魅力発信を目指し、民間ヒアリングを行った結果、立地条件・採算性・事業規模などの面から民間事業者の参画意欲が低く、現状では全体委託や指定管理等は困難であることから、運営については分野ごとにヒアリングや検討を行い、運営手法の考え方を整理しました。

■ PPPプラットフォーム意見交換会（令和4（2022）年度、令和6（2024）年度に実施）

人員確保と技術の問題

- ・動物の飼養管理には専門性が求められ、人材確保・育成コストが高い
- ・特に希少種の取扱いには高度な知識・経験が必要

財政面の懸念

- ・現状予算では人件費・光熱費・修繕費などをカバーできず、持続的運営が困難

動物とのふれあいプログラムの課題

- ・アニマルウェルフェアへのエビデンスの提示が必要
- ・「ふれあい」には、配慮と説明責任が求められる
- ・いきなり指定管理者制度に移行すると事故・クレーム・混乱の恐れがある
- ・「段階的な参入」が安全かつ望ましい

⇒「指定管理者制度での業務への即時参入は、運営の効率性や来園者への影響、動物飼育及び健康管理面など、多方面でリスクがある

■ 管理運営手法（飼育業務）

JAZA加盟園として単なるレクリエーション施設ではないアニマルウェルフェア・教育・研究に高い責任を負う夢見においては、市が主導し、全体方針をコントロールすることが重要です。これを前提に、民間パートナーとの飼育業務の連携手法を「直営」「委託」「指定管理者制度」で比較検討し、定性評価、定量評価の結果、飼育業務は行政が主導的に実施することとします。

■ 管理運営手法（アクセス、駐車場）

夢見は高台に位置していることから、徒歩での来園には一定の負担が伴うほか駐車場の狭さや、バス停からの距離など、アクセス面での課題があります。これらの課題に対応するため、園路のバリアフリー化を進め、駐輪場の拡充、周辺施設との連携による駐車場台数の確保を検討します。また、公園までのルート案内を充実させるなどアクセス環境の向上に継続的に取り組みます。

また、駐車場に関しては、民間事業者との詳細な対話の結果、周辺公共施設（日吉合同庁舎など）と連携のうえ、設置許可制度を活用し、駐車場の有料化を進める方針とします。



夢見 駐車場

■ 管理運営手法（プログラムの実施、広報、啓発業務）

多くの夢見の利用者に求められている、加瀬山を活用した体験プログラムや魅力がより伝わる新たな取組、包括的な歳入確保につながる企画、ネイチャーポジティブに資する活動の推進など、豊富なノウハウやアイデアを有する民間パートナーとの連携により、更に拡充します。



プログラムのイメージ
野生の動物のすみか探し
(東京都建設局HPより)

■ 包括的な歳入確保に向けた検討

- 「クラウドファンディング」「寄附の拡充」「ネーミングライツ」などの付加的な官民連携の手法について、効果的に実施します。
- 公園管理の協働として、飼料などの調達の連携、広報活動、パークセンター内の販売などの協働の可能性を引き続き検討します。
- 飼育業務関連のDX化など新技術の活用について、適宜検討し、アニマルウェルフェアの向上や、より効率的な管理運営を目指します。
- 有料体験プログラムの導入や駐車場の有料化等について、動物飼育などに還元できる、持続可能な経営の視点を踏まえた仕組みを検討します。



看板広告サポーター
(京都市動物園)



グッズの例
(足立区生物園HPより)

■ 民間事業者との連携範囲

夢見の民間事業者との連携は、以下に図示した範囲を中心とし、再整備の進捗に伴い、事業者の参入意欲の確認などを実施します。



地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。

再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら市民・企業・大学等と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。

企業とのつながり例



地域とのつながり例

※赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



動物公園内の循環の例



13. 事業スケジュール

27

再整備計画を**令和8（2026）年度5月に策定**し、整備に向けた基本設計などを進め、**令和10（2028）年度から飼育動物を移動させながら、段階的に、改修整備**を進めます。**民間パートナーとの協働は、令和9（2027）年度からの実施を予定**し、駐車場は近接する日吉合同庁舎駐車場・臨時駐車場と連携した、**効率的・効果的な資産の有効活用**を行います。

なお、動物の飼育状況によっては施設配置の計画を適宜見直すものとし、スケジュールについても今後、詳細設計や施工計画などにより変更が生じる場合があります。

■事業スケジュール

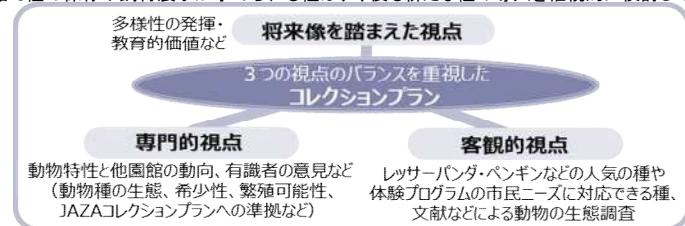
年度 項目	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和13 (2031)	令和14 (2032)	令和15 (2033)	令和16 (2034)	令和17 (2035)
計画策定 ／協働・連携	再整備計画骨子		市民意見の募集	再整備計画策定	民間パートナーとの協働 導入準備	駐車場や体験プログラムなど 民間パートナーとの協働						
					生物多様性を発信する場としての展開							
				導入準備		生物多様性に関する取組 (自然資源の現況調査、企業・市民が参加できる枠組みを整備・発信、企業や大学と連携した研究・教育の場、モニタリングの実施等)						
施設整備	パークセンター、園路等先行整備		基本設計	詳細設計	第1期工事	詳細設計	第2期工事	詳細設計	第3期工事	埋蔵文化財調査	埋蔵文化財調査	
					埋蔵文化財調査		埋蔵文化財調査		埋蔵文化財調査			
関連 スケジュール	秋	春										
動物種数 (自然減想定)	51種	(R7.12月末時点)										約46種

夢見ヶ崎動物公園コレクションプラン(案)

コレクションプランの考え方

夢見ヶ崎動物公園で飼育している一部の動物種においては、高齢化や近親交配が進み、今後の繁殖が困難と考えられる動物種も存在します。持続可能かつアニマルウェルフェアに配慮した飼育体制を確保し、今後も動物園としての役割を果たすために、飼育動物種の継続計画「コレクションプラン」の考え方を整理します。

コレクションプランは、教育的価値など動物公園の将来像を踏まえた視点、動物の特性や他の動物園の動向などを踏まえた専門的な視点、人気の動物種など客観的な視点から総合的に判断します。また、飼育動物種数・個体数の動態を踏まえ、必要に応じて適宜見直します。現飼育個体については継続して飼育していくこととし、飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、将来的に計34種(+α)を継続して飼育する方針とします(現飼育個体の令和17(2035)年度における自然減想定は約46種)。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、JAZAコレクションプラン掲載種など、国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種は、今後も新たな種の導入を継続的に検討していきます。



考え方		動物園としての役割・取組内容など	
飼育を継続する種	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種 近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種 人気種等市民ニーズの高い種 魅力増進に対応する種 	種の保存・ 野生生物保全 調査・研究 教育・環境教育 レクリエーション 情操教育、 環境教育など	<ul style="list-style-type: none"> 種の保存への貢献その他これまでの実績などを勘案し、積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続する 状況に応じて個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続する <div style="background-color: #e0f2e0; padding: 5px;"> 川崎市環境教育・ 学習アクションプログラムなどへの貢献 </div> <div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;"> 生物多様性がわさき戦略などへの貢献 </div>
新規に導入する種			[34種]
現飼育個体をもって 飼育を終了する種	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖や新規導入が困難な種 他の希少種などの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種 外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種 		[+α]

コレクションプラン

コレクションプランの考え方により夢見ヶ崎動物公園で飼育管理する種を①推進種 ②維持種 ③調整種 ④対象外の4つのカテゴリーに分類します。

このコレクションプランに加えて、夢見ヶ崎動物公園の魅力増進に対応するための新たな種の導入については継続的に検討します。

【分類】

分類の定義	
①推進種	飼育を継続する種で、積極的に個体の導入・繁殖に取り組む種
②維持種	飼育を継続する種で、夢見ヶ崎動物公園の整備の進捗等状況に応じて個体の導入・繁殖を検討する種
③調整種	現飼育個体をもって飼育を終了する種で、繁殖や新規導入が困難な種・または他の希少種などの飼育スペース等の調整のため繁殖を行わない種
④対象外	現飼育個体をもって飼育を終了する種で、外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種

希少種、JCPカテゴリー、種の保存法該当種の確認について

- 希少種:「The IUCN Red List of Threatened Species」WEBサイト(<https://www.iucnredlist.org/ja>)より確認
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:深刻な危機 EN:危機 VU:危急 NT:準絶滅危惧 LC:低懸念



- JCP: JAZA Collection Plan(20250114版)より確認

管理種: 血統登録+個体群管理をする種

登録種: 血統登録をする種

維持種: 個体数の変動状況を把握する種

調査種: 入手経路や繁殖技術等の情報収集をする種

※分類についてはJAZA「新・飼育ハンドブック 動物園編3」P.12をもとに記載

- 種の保存法

種の保存法に定められている国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種等について、
環境省ホームページ「種の保存法における規制対象種一覧(令和7年2月12日時点)」をもとに確認

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。

動物種	希少種	JCP	種の保存法 (国内/国際希少 野生動植物種)	分類	夢見ヶ崎動物公園再整備計画におけるコレクションプランの考え方	補足
クロシロエリマキキツネザル	CR	管理		①推進種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	キツネザル科の他種との比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
ワタボウシパンシェ	CR	管理	国際希少野生動 植物種	①推進種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	ワタボウシパンシェとコモンマーモセットの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
オグロプレーリードッグ	LC	—		①推進種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	
チリーフラミンゴ	NT	維持		①推進種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
フンボルトペンギン	VU	管理	国際希少野生動 植物種	①推進種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
ミドリコンゴウインコ	VU	管理	国際希少野生動 植物種	①推進種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	ミドリコンゴウインコとルリコンゴウインコの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
バラワンコクジャク	VU	登録	国際希少野生動 植物種	①推進種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	当園はこの種のJAZAにおける国内血統登録担当動物園であり、日本の動物園が協力して保存計画を立てている。ハイイロコクジャク、バラワンコクジャク、インドジャクとの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる。
テンジクネズミ	—	—		①推進種	人気種等市民ニーズの高い種	
ヤギ	—	—		①推進種	人気種等市民ニーズの高い種	ヤギ、マーコールとの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
ハイイロコクジャク	LC	維持		①推進種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	ハイイロコクジャク、バラワンコクジャク、インドジャクとの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
ホウシャガメ	CR	管理		②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
コバタン	CR	維持	国際希少野生動 植物種	②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	

動物種	希少種	JCP	種の保存法 (国内/国際希少 野生動植物種)	分類	夢見ヶ崎動物公園再整備計画におけるコレクションプランの考え方	補足
キエリボウシインコ	CR	維持	国際希少野生動植物種	②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
ケヅメリクガメ	EN	—		②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
ヨウム	EN	登録	国際希少野生動植物種	②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
アルダブラゾウガメ	VU	登録		②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	セイシェル共和国から国際友好親善で贈られた種
ブラウンキツネザル	VU	—		②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	キツネザル科の他種との比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
ワオキツネザル	EN	維持		②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	キツネザル科の他種との比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
シセンレッサーパンダ	EN	管理	国際希少野生動植物種	②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	
マーコール	NT	—	国際希少野生動植物種	②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	最も体が大きい野生のヤギの仲間として知られ、特徴のある角や群れて行動する習性など教育上の価値は高い。ヤギ、マーコールとの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる。 国内飼育館が少ない。
ホンシュウジカ	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	近年の獣害問題や、人と野生動物の関わり方を伝える重要な役割となり得る。 角はマーコールとの比較展示にも有用である。
フサオマキザル	LC	維持		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	
ボリビアリスザル	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	
インドクジャク	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	ハイイロコクジャク、パラワンコクジャク、インドクジャクの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる

動物種	希少種	JCP	種の保存法 (国内/国際希少 野生動植物種)	分類	夢見ヶ崎動物公園再整備計画におけるコレクションプランの考え方	補足
コモンマーモセット	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	ワタボウシパンシェとコモンマーモセットの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
ルリコンゴウインコ	LC	維持		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	ミドリコンゴウインコとルリコンゴウインコの比較展示により、教育的価値の向上が期待できる
ホンドタヌキ	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	野生動物救護・環境保全を考える機会づくりなど、教育的なプログラムに役立てることができる
オオタカ	LC	登録		②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	野生動物救護・環境保全を考える機会づくりなど、教育的なプログラムに役立てることができる
チョウゲンボウ	LC	維持		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	野生動物救護・環境保全を考える機会づくりなど、教育的なプログラムに役立てることができる
ニシトビ	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	
ハヤブサ	LC	維持	国内希少野生動植物種	②維持種	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	野生動物救護・環境保全を考える機会づくりなど、教育的なプログラムに役立てることができる
ニホンアナグマ	LC	—		②維持種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	野生動物救護・環境保全を考える機会づくりなど、教育的なプログラムに役立てることができる
ラマ	—	—		②維持種	人気種等市民ニーズの高い種	開園40周年で導入・飼育開始した種
ロバ	—	—		②維持種	人気種等市民ニーズの高い種	
ハートマンヤマシマウマ	VU	維持		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
エロンガータリクガメ	CR	—		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
ベトナムキジ	CR	登録		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	

動物種	希少種	JCP	種の保存法 (国内/国際希少 野生動植物種)	分類	夢見ヶ崎動物公園再整備計画におけるコレクションプランの考え方	補足
クサガメ	EN	—		③調整種	他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	愛玩用に飼育されていたものが遺棄され野生化し、在来カメ類との交雑が懸念されている
ホルスフィールドリクガメ	VU	—		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
オオホンセイ	LC	—		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
ニホンイシガメ	NT	—		③調整種	他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	
アオボウシインコ	NT	維持		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
シロビタイムジオウム	NT	登録	国際希少野生動植物種	③調整種	他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	
パナマボウシインコ	—	—		③調整種	他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	
ワカケホンセイインコ	—	—		③調整種	他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	
ケモザル	—	—		③調整種	他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	
アカアシガメ	—	—		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
マメコバタン	—	—		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
アカオヒメシャクケイ	LC	—		③調整種	繁殖や新規導入が困難な種	
カミツキガメ	LC	—		④対象外	外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種	特定外来生物である
ミシシッピアカミミガメ	LC	—		④対象外	外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種	条件付特定外来生物である
ハクビシン	LC	—		④対象外	外来種、特定外来生物など飼育種としての定着を想定しない種	環境省の定める生態系被害防止外来種である